

■**〔阪田〕坂田三吉** 将棋棋士。独学で関根金次郎に対抗に至るも、読書できず孤立不遇、映画「王将」のモデルで人気。
さかたさんきち
初の日刊新聞1870＝ 和泉国舩松村（現在の堺市内）で、下駄の表をつくる家に生れた。

明治6年政変 1873＝ 3歳：

三つの反乱・1876＝ 6歳： 尋常小学校に入学するが、半年ほどで退学、以後、読み書きができないで育つ。

琉球処分・・・1879＝ **9歳**：

明治14年政変1881＝11歳：

新体詩抄・・・1882＝12歳： この頃には、初段程度の強さになって、近くには敵がいなくなった。

岩倉具視没・1883＝13歳 将棋に熱中するのをきらった両親に、大阪日本橋の草履屋に奉公に出されたが、ある日、縁台将棋に夢中になり、預かっていた赤子に怪我をさせ、ひまを出されて戻った。

内閣発足・・・1885＝15歳： 父が死去。

その後、 賭け将棋にのめりこみ、

初の対等条約1888＝**18歳**：

帝国憲法発布1889＝19歳： この頃には、賞金稼ぎのすご腕「境の三吉」として、近隣で有名になった。

日清戦争始・1894＝24歳： この頃、西国を巡業していた後の名人関根金次郎と初対局、屈辱的な敗戦となり、以後仇敵となる。

八幡製鉄始・1897＝**27歳**：

日露戦争終・1905＝35歳： この頃、コユウと結婚。この年、関根は八段に昇格。

満鉄発足・・・1906＝**36歳**： 長女誕生。*関根との二度目の対局で千日手を知らずに敗れて覚醒し、プロ棋士として立つ決意を持つ。

韓国反日暴動1907＝37歳： 神戸での対局で三たび、関根に敗れ、ショックを受け、局後の宴会にも出ず、大阪まで歩いて帰る。

アヲキ創刊・1908＝38歳： 〔大阪朝日新聞〕の将棋顧問に迎えられ、社会に目を開くようになる。関根との四度目香香角落ち三番勝負の対局で、遂に、初勝利を上げた。高橋竜太郎が弟子入り。

伊藤博文暗殺1909＝39歳： 長男誕生。この年、東京で将棋同盟会が結成されたのを受けて、

韓国併合・・・1910＝40歳： 自ら七段を名乗り、坂田が中心となって関西将棋研究会が発足した。発刊の〔将棋活法〕を編集。

大逆事件判決1911＝41歳： 関西将棋研究会の機関誌〔将棋雑誌〕が創刊された。

明治天皇没・1912＝42歳： 二男誕生。

大正政変・・・1913＝43歳： *今度は関根に香落ちで勝利し（泣銀の局）、初の平手戦では敗れたが、次の平手戦で初勝利、その実力が関根と並ぶものであることを証明した。しかし、生活の困窮は極限に達し、妻が3人の子道連れに自殺未遂。

21ヶ条要求・1915＝**45歳**： まだ終身名誉職であった当時の小野名人から、八段を免許された。

民本主義・・・1916＝46歳： 二女誕生。

ロシア革命・1917＝47歳： 関根と柳沢邸で対局し、勝利したが、師の仇討ちと挑んできた七段土居市太郎に平手戦で敗れた。

本格政党内閣1918＝48歳： 関根との最後となった対局で敗れ、以後大きな目標を失う。

ベルサイユ条約・1919＝49歳： 三男誕生。宝塚で土居と対局（坂田角損の局）。

大暴落・・・1920＝50歳： 小野名人卒寿の祝賀会で、大崎七段と対局（角頭の歩突き）。金易七段と対局（夢角の局）。

原敬首相暗殺1921＝51歳： 小野名人が没し、関根が名人となる。

水平社結成・1922＝52歳： 以降、3年あまり、以前から患っていた眼病が悪化したため、対局が無い。

護憲三派圧勝1924＝**54歳**： 三女誕生。この年、東京将棋連盟結成。

治安維持法・1925＝55歳： *関西の支援者たちにけしかけられて、名人を自称し、東京将棋連盟から絶縁されて孤立する。

金融恐慌・・・1927＝57歳： この年、日本将棋連盟創立。妻が病死し、新たな自覚が最後の転機となる。

共産党事件・1928＝58歳： 〔読売新聞〕が坂田担ぎ出しに動き始め、

世界恐慌・・・1929＝59歳： 〔大阪朝日新聞〕に坂田名人実話「将棋哲学」が連載される。

海軍軍縮条約1930＝60歳： 孤立直後から支えられた書道家中村眉山に文字を習う（結局数文字しか覚えなかった）。

満州事変・・・1931＝61歳：

国際連盟脱退1933＝**63歳**： 〔大阪朝日新聞〕との囑託契約を解消。星田啓三が内弟子となり、住み込む。

芥川直木賞始1935＝65歳： この年、関根が実力名人制の導入を図るべく、自ら引退し、第一期のリーグ戦が始まった。

二二六事件・1936＝66歳： 日本将棋連盟などが解散、将棋大成会を結成、棋界の全国統一が実現した。坂田の表舞台への復活を図ろうとした菊池寛の根回しで、〔読売新聞〕の対局を受諾。

日中戦争始・1937＝67歳： 南禅寺で木村義雄と（端歩の局）、天竜寺で花田長太郎と対局（再び端歩）。木村はこの年初代実力名人に。

健保+総動員 1938＝68歳： *和解が実現、第二期名人挑戦者リーグ戦に参加したが、初戦の神田辰之助に敗れ、リーグ戦全体で7勝8敗と、もはや往年の力を発揮することはできなかったが、正式に自称名人を返上し、肩の荷を下ろす。

日米開戦・・・1941＝71歳：

・・・・・・1942＝**72歳**：

以後、公式対局は無く、その頃迎えた後妻と自宅にこもり、子どもとは別居の寂しい生活を送り、

敗戦・・・・・・1945＝75歳：

新憲法公布・1946＝76歳： 世間から忘れられたように、没した。くしくも、同年関根も没している。

没後、にわかに伝説の人となり、北条秀司作の新国劇「王将」（1947初演）や映画「王将」「王将一代」、演歌「王将」のモデルとして無学奇行が誇張されて伝えられる。また、55年に実力が認められて日本将棋連盟より“名人位”“王将位”が追贈された。その翌年大阪府豊中市の服部霊園に墓碑が建てられた。

岡本嗣郎「9四歩の謎」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、「なにわ人物譜」、